筆山

第74号／2023年12月

土佐中・高等学校同窓会
関東支部会報

編集人/ 中平 公美子（59回）
発行人/ 関東支部幹事長　町田憲昭（67回）
関東支部ホームページ：
http://www.tosako-kanto.org/

同窓会運営を経験して

関東支部同窓会への参加は昨年が初めてでした。2の回の皆さんからバトンを受け、初めて運営に携わらせて頂くことになりました。歴代の先輩方が繋いでこられた関東同窓会を運営するということはプレッシャーでもありましたが、結果として多くの方々にご参加頂き少し母校への恩返しができたのではないかと思っております。また、運営については大先輩の方々から若い後輩にもサポートをして頂きました。分からない点や悩むことも多かったですが、皆さんにフォローアップして頂くことで一つ一つ解決していくことができました。改めて感謝申し上げます。世代を超えても様々な同窓生と繋がれる機会があることはとても貴重ですし、ぜひこれからも続いてほしい文化だと思います。地元を離れ頑張っている同窓生と語らい合い、楽しく過ごせる機会として来年以降も楽しみにしております。

吉本史哉（83回）

コロナ禍の収束(?)により様々な正常化が進む中、関東支部同窓会も4年ぶりにリアルのみでの開催となりました。今年はReStart(リスタート)をテーマに、末尾3の回生で運営させていただきました。長年お世話になった霞が関東海大学校友会館の閉館により、会場探しが難航すると当初予想されましたが、佐々木泰子先輩(33回)のご主人のお計らいにより、プレスセンターホールという歴史と格調のある会場を使用させていただくことができました。この場を借りて、佐々木先輩ご夫妻に改めて御礼申し上げます。同窓会準備は分からないことだらけの中でスタートしましたが、諸先輩方や当日参加頂いた皆さんのおかげで、盛会に終えることができました。やっぱり同窓会はリアルが良いですね！毎月の準備会＆飲み会には23回生の森 健先輩から93回生までの幅広い世代が参加し、世代を超えた議論や談笑は、普段の生活ではなかなか経験し得ない貴重な経験と思い出になりました。

結城 優（83回）

関東支部だより

総会懇親会開催 9月30日(土)

関東支部同窓会が、4年ぶりにコロナ感染リスクによる様々な制約もなく、日本プレスセンターで開催されました。大人でも一口5000円と参加しやすいこともあり、200名を越えるOB・OGが集まりました。事前決済の受付も2年目で、受付もスムーズに。森郁夫支部長の開会のあいさつもマスクなし。お世話になった先生方(濵田一志校長・久米將裕教頭・大﨑武教諭・島内麻千子教諭・小村彰前校長・岡松宏明元教頭・井上聖香元教頭)との懐かしいお話。新たな交流も生まれて、リアルで集まれる楽しさを実感いたしました。準備いただきました学年末尾3の回の皆様、本当にありがとうございました。

森郁夫支部長の挨拶

■総会にて、幹事の活動や会報誌『筆山』の発行についての報告と、会計報告が行われ承認されました。校長となって初参加となった濵田一志校長から学事報告が行われました。(学校だよりはP18・19をご覧ください)

町田憲昭幹事長の報告

■記念講演は、キャリアチェンジにより再建されてきた窪内靖治さん(73回)と濵田知佐さん(56回)のお話。新しいことにチャレンジするこだわりやヒントがお話の随所に感じ取られる素晴らしい内容で、パワーをいただきました。どちらもワインでつながりがあることから、懇親会の食事にも【よさ来いワイナリー】のワインが用意されました。

■各種イベント活動の紹介では、筆山会・はちきん会・若手の会・ゴルフ・ハイクの参加が呼びかけられました。詳しいお知らせは、随時ご紹介いたします。同窓会関東支部HPをご覧ください。

■学年幹事会は令和6年2月17日(土)午後を予定しております。場所や時間が決まりましたら、ご案内させていただきます。

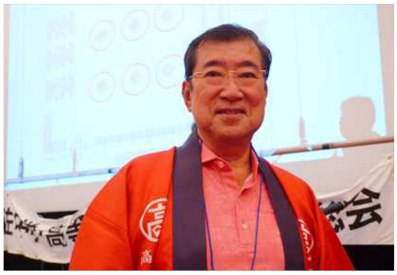
会費納入のお願い

令和6年度同窓会関東支部年会費の払い込み用紙を同封いたしました。
また、下記ご利用でインターネットバンキングにも対応いたしております。
ゆうちょ銀行　支店番号〇一九(ゼロイチキュウ)　当座預金 口座番号　142816
出費多き折かと存じますが、何とぞご理解ご協力のほどお願いいたします。

メール登録で同窓会と繋がりましょう

土佐中・高等学校 同窓会 関東支部 公式ページ

総会・懇親会の準備と司会　3の回の皆さん



3の回から4の回へと準備会が引き継がれました

キャリアチェンジにより様々な事業を「Re Build ～再建～」してきたお2人による記念講演！

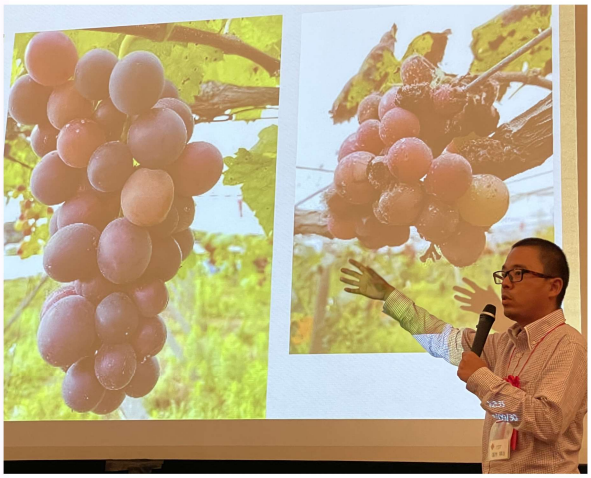
「Re Build ～再建～」が今回の記念講演のキャッチコピーです。このコピーは、具体的な講演内容が決まるより前に、総会タイトルから連想して作成されたものです。しかし結果的にはこの謳い文句その通りの内容で、事業だけでなく人生も何度でも建て直せる、そんな勇気をもらえる素晴らしい講演となりました！　丁野真一（73回）

まずお一人目の窪内靖治さん（73回）の講演内容をご紹介します。窪内さんはＩＴ企業勤務の後、ブラウブリッツ秋田（現Ｊ２）というサッカーチームに入社し、本格的なサッカービジネスを経験されます。

その後「地元高知にＪリーグクラブを！」という目標に向かって南国高知ＦＣを社員一人から立ち上げ、現在の高知ユナイテッドＳＣ（ＪＦＬ所属）の骨格を築き上げられました。高知ユナイテッドＳＣは２０２３年、天皇杯でジャイアントキリングを起こした事で話題になったので、記憶に新しい方も多いのではないでしょうか。

サッカービジネスに携わりながらもコツコツとワインの勉強を続け、ついに仕事を辞して２０２１年『よさ来いワイナリー』を立ち上げます。現在は、高知市廿代町に四国初の都市型醸造所を設立、醸造免許も取得し２０２４年の自家製ワイン完成を目指しています。

サッカービジネスから一転、ワイナリー立ち上げと言うと全く新しい分野に挑戦されているように見えますが、実は窪内さんのその行動の奥には「地元高知を元気にしたい！」という地元愛がありました。「地元を誇れることが大事であり、そのために地元らしさを作りつないでいく」「そういう意味で、高知にＪリーグクラブができることも高知産ワインができることも同じ。高知のひとつの風景や体験を作り出すことができる」そう語る窪内さんの表情を見て私たちも、一見紆余曲折あるように見えるキャリアにも実は「高知にオリジナルの文化を作り、それによって高知を活性化させたい」という一貫した想いが流れていることを理解し、感銘を受けました。



森 郁夫支部長と現役大学生からお礼の花束が送られました

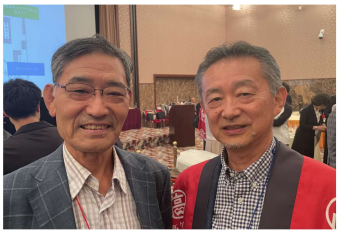
新しいことに挑戦するエネルギーやヒントなど、お話の中から見つけてみてください♪

続いてお二人目、濱田知佐さん（56回）の講演内容をご紹介します。大学卒業後にANAに入社。そしてソムリエ資格を取得し、田崎真也ワインサロンなどワインスクールやレストラン経営。女性初のポメリーソムリエコンクール優勝。関東在住の高知県人にはお馴染み・高知県初のアンテナショップレストラン『おきゃく』の企画・立案・運営。高知県観光特使任命。『株式会社いなげや』外部から初の女性執行役員就任と、華々しい経歴をお持ちのように見えますが、実はその合間に起きていた苦労（と一言で済ますには余りにも壮絶な逆境）のお話もしてくださいました。ソムリエとして女性初の日本代表に選ばれるほどの位置まで上り詰めながら、突然の乳がん発覚。がん手術の4日前にお父様が他界。手術後「頑張ってがんを克服しコンクールに出場したい！」との想いで闘病を続けるも病気を理由に日本代表選外となり、仕事の夢も女性としての尊厳も失いました。

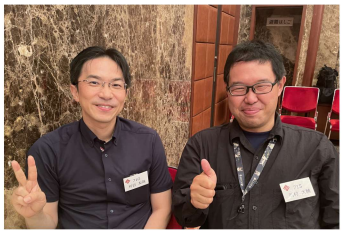
講演中の濱田さんは、時折ユーモアも交え明るい口調で話されていましたが、聴いているこちらの心が震えるほどダイナミックな人生、逆境の数々でした。濱田さんは「艱難汝を玉とす（どのような難儀なことも私を玉として光り輝かせてくれるもの）」を座右の銘とし、人生において「壁」に見えたものは実は自分を成長させてくれる「扉」だったかもしれないと語ります。ですが自分だったら果たしてそれほどの壁を乗り越えられるだろうか、強い心を保てるだろうかと、深い尊敬の念を抱くばかりでした。聴講者の中には目に涙を浮かべる方や、「まるで一本の映画を観ているようだった」と感想を述べられる方もいるほどドラマティックで感動的な講演でした。濱田さんも、病気療養で高知に滞在したときに高知の魅力を再実感し、「帰ってこられる場所を作ろう」とその後の仕事方針につながったといいます。

お二人の高知への想いはシンクロし、「Re Build ～再建～」というタイトルにも付号して、まるで講演全体でひとつの脚本として纏められていたかのように、美しいストーリーとなって深く語りかけてきました。私も高知の魅力・土佐出身者の魅力を改めて実感し、新しいことにチャレンジする勇気、自分の仕事につなげていくインスピレーション、辛く苦しい壁が立ちはだかった時の心の在り様など、様々なエネルギーを貰うことができました。聴講者の皆さんからも大絶賛で、その後の懇親会の盛り上がりにもつながる、大成功の講演でした。

一般社団法人
土佐婚倶楽部®
TOSAKON CLUB
婚活のお悩みを心を込めてサポート致します
年に数回、合コン 等やってます！詳細はＨＰで
代表理事・東京相談室長　織田祐輔（45回生）
顧問　梅原　毅（45回生）
顧問弁護士　浦田理有（76回生）
URL http://tosakonclub.com/
東京相談室　080-5010-5545
〒204-0023　東京都清瀬市竹丘1-17-21



写真集



5年ぶりのはちきん会

5年ぶりのはちきん会が、11月11日に銀座DAZZLEで開催されました。皆様へのお知らせから開催までが1か月と短い中、再開を待っていらした方々も多く、おかげさまで女性37名、男性22名、25回から96回までの総勢59名をお迎えして無事に開催することができました。お誘いあわせでのご参加、はちきん会幹事一同感謝申し上げます。

会は、佐々木泰子(33回)前はちきん会会長の乾杯のご発声でスタート。高い天井から照明が吊り下げられた豪華な空間で、モダンなイタリアンをワインとともに楽しみました。

今回のナイト、片岡方和さん(40回)からは、ちふれ化粧品「しわ改善のクリーム」を出席者全員にプレゼントいただき、みなさん大喜びでした。

ゲストスピーカーの菱山美希さん(73回)は弁護士と歯科医の資格を持ち、二人のお子様の子育て中。切り替えが上手で集中力と行動力のあるお話に、元気をもらったとおっしゃる方がたくさんいらっしゃいました。ご参加の方からの感想をご紹介いたします。

5年ぶりに開催されたはちきん会、恐れ多くも司会進行を務めさせていただきましたが、皆さま温かく見守ってくださり感謝申し上げます。

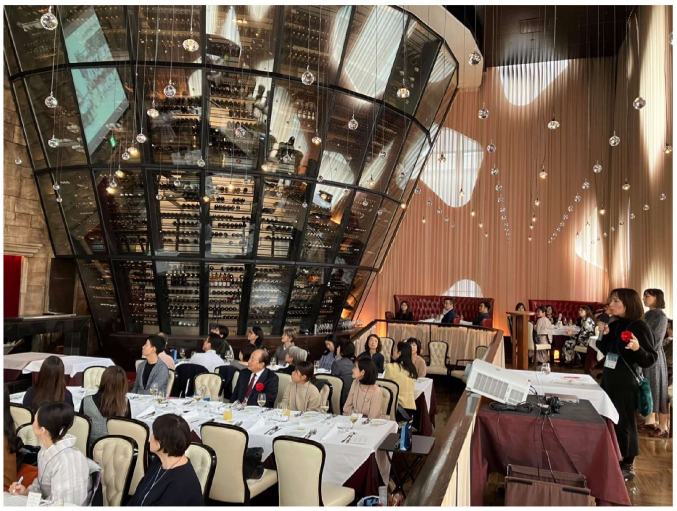
ゲストスピーカーの美希さんは聡明かつ明朗で、何よりパワフルでした！壁にぶつかりながらも難しい資格を2つも取得し、今は働きながら二人のお子さんを育て、隙間時間で将来を見据えたインプットを怠らない姿勢に刺激をうけました。

ご出席の皆さんともたくさんお話できて、とても楽しかったです。事務局の皆さま、本当にありがとうございました！　長江悠夏さん(83回)

同窓生の活躍に励まされ、優しい先輩方、可愛い後輩たちとの交流に活力をもらえた素敵なひと時でした。美味しいお料理とワインをいただき、ちふれのオールインワンジェルクリームのお土産まで！楽しい時間を過ごせて、すっかりリフレッシュいたしました。年末の忙しい時期を乗り切るパワーをもらえたように思います。

企画・運営をして下さった皆様に感謝。土佐校の絆を感じられる同窓会活動、ぜひまた参加させていただきたいです。　小島真知さん(64回)

菱山美希さん講演の様子　天井が高くてクリスタルに彩られた室内・ワインセラーが目を引きます



（左）講演後に坂本竜さん（96回）からお礼の花束が送られました

銀座のオシャレなお店での会とあって、気合を入れて着物で伺いました。専業主婦の身には敷居の高い会なのですが、恩師のエピソードなど懐かしく、土佐のアットホームな雰囲気を満喫しました。講演された菱山さんの「これぞ、はちきん！」という生き方と、著書を出版された臼井さんの演劇に後日伺ったりと、多くのご縁と刺激をいただきました。

ナイトの片岡さんからのプレゼントは私達の年代には本当に嬉しい御品で、当日からすぐ試させていただいております。乞うご期待！次回もぜひ参加したいと思います。

池田章子さん（47回）

久々に開催されたはちきん会の会場は、高い天井まで陳列されたたくさんのワインが壮観でした。講師の菱山さんは、中学時代は陸上部で運動会ではリレー選手で大活躍だったとの事。元気いっぱいの庶民的な美女で大変魅力的でした。

はちきんの先輩（34回）とは同級生の伯母の話が出来ました。浜松から参加した同級生は、参加者最年長のいごっそう先輩（25回）が彼のお父さん（26回）を覚えておられて握手していました。はちきん会参加で、縦や横のつながりを再認識出来ました。参加者全員で撮った集合写真の笑顔が皆さん素敵です。

野村晴一さん（57回）

菱山美希さんのお話から　菱山さんご自身が、最強マーケッター森岡毅さんの著書を読み元気をもらった経験から「苦しかった時をどうやって乗り切ったか」をお話いただきました。

高校卒業後は一浪して岡山大学医学部保健学科看護学専攻へ、障害者の方や認知症の方が必死に生きている姿を見て頭を殴られた思いをされます。そこでセンター試験から再度受験して歯学部へ進み、歯科医師免許を取得。さらに大阪大学高等司法研究科へ入学して司法試験に合格、33歳で弁護士登録をされました。体重が70キロまで増えるほどストレスを抱えた司法試験受験期、網膜剥離になる危機下でも『目を使わず出来る勉強法』で成績が急上昇、自分を信じて不安を忘れるほど頑張っていればアドバイスや応援してくれる人が現れ、司法試験も乗り切れたそうです。

印象的だったこと①二人の子育てと仕事の両立は大変、でも無理をしない事を心掛け、行政のサポートや子育て制度をしっかり使い、家政婦さんに作り置きや掃除を頼んで、家族との時間を作ります。②健康は大切なこと。ただ病気になったことを悲観することなく、苦しさの排除や生活の見直しをします。③辛らつな言葉にも屈することなく頑張っている人を積極的にアドバイスして応援します。④苦しい時ほど目の前のことに集中。筋トレや体に負荷をかけることで、頭の中を排除して心を落ち着かせることを意識的にします。

浅川　純さん(85回)について

土佐高校卒業後、東京大学に進学。東京大学工学部・航空宇宙工学科に。
東京大学大学院工学系研究科・航空宇宙工学専攻・修士から博士課程を卒業。
東京大学 大学院新領域創成科学研究科 先端エネルギー工学専攻特任助教を経て
株式会社Pale Blue（2020年4月3日設立)代表取締役となり現在に至る

この先やってみたいことは・研究の社会実装・科学技術による人類の幸福の最大化
・宇宙における産業インフラの構築・深宇宙/地球外生命探査

行ってみたい星は　エンケラドス(水が噴き出す星)
・プロキシマb(地球に似た星)

講演中の浅川さん！ずっと半袖Tシャツでした

夢のあるお話に、たくさん質問が出ましたすべてに分かりやすく応えてくださいました

BtoCの宇宙領域広がりをどう思いますか

現状BtoBの領域が大きく、宇宙事業自体が赤字が出ているところが多い。BtoCの領域に広がることで事業としての成長が目指せると思う。

研究者から起業をするためにどのようなサポートが欲しかったですか？

経理、会計の知識が乏しかったので、知識を学べたり専門家と繋がれる仕組みや海外展開メインになるので、展開支援があると良かった。

宇宙で水が凍らないのはなぜですか？

水が凍らないようにヒーターを張っている、水が凍っても問題ないような設計をしている。利用する際には温める機能を搭載しており、ソーラーパネルから電池にためて利用しています。

■会場からの声、懇親会の雰囲気

普段なかなか聞けないお話で、大変刺激的でした。お話も上手で、あっという間の時間でした。私は普段宇宙について考えることがなかったので、とても新鮮でした。浅川さんは中学生の頃から宇宙に関することを仕事にしたいと考えて実際にその夢を実現されて毎日宇宙について考えて研究されていて、どんどん未知の世界を開拓されている姿がかっこよかったです。また、NASAと一緒に仕事をされている先輩が土佐高卒業生にいたことに驚きました。同窓生の活躍ぶりにエネルギーをもらいました。応援してます。

懇親会では、同級生はもちろん、世代を超えて交流し非常に盛り上がりました。お忙しい中、講演をいただいた浅川さん、関東同窓会の幹事のみなさま、同日開催にてご参加いただいたはちきん会のみなさま、そして運営でメインで動いていただいた北川至さん(81回)、土居勘太さん(85回)にはこの場をお借りして改めて御礼申し上げます。運営に関わりたい方も募集しています、興味のある方は松岡健太(88回)までご連絡ください。
(kenta.matsuoka0502@gmail.com)

※若手の会は38回池田基金を活用させていただきました。
※写真は集合写真家、武市真拓さん(69回)、運営メンバーより提供を受けています。

若手の会

宇宙を目指して一起業家の道のりと挑戦
浅川 純さん(85回)

若手の会では、卒業生にお越しいただき講演と若手での交流を目的に懇親会を開催しております。 今回は水を推進剤とした小型衛星用推進機を開発する「株式会社Pale Blue」を創業されている浅川純さん(85回)にお越しいただきました。講演では、①「中学・高校時代のお話(宇宙への興味)」②「大学時代のお話(宇宙の研究)」③「宇宙ベンチャーPale Blueの創業とその後」という3つのポイントでお話いただきました。

中高時代にはサッカー部で、部活と授業とを頑張っていた中で、中学生の時の将来のやりたいことを紙に書いて提出する際に、お父さんの宇宙が好きだった影響もあり「(なんとなく)宇宙」と書いたことが始まりだったそうです。受験期に恩師の川田大輔先生から、当時ブームだったドラゴン桜の「東大に行け！」といわれて、クラスで漫画も回し読みをしていると、だんだんと東大に行きたいという気持ちが強くなり宇宙工学の分野を目指しました。

東京大学にも合格し、大学時代には学業、フットサル、アルバイトを行っていました。大学3年次に学部選択の機会になります。学部選択の際に、恩師であり、Pale Blueの共同創業者でもある小泉宏之先生との出会いから研究にのめり込んでいきます。小型衛星のエンジンの研究(大型のものより小型のものが最近は主流です)に取り組みました。小惑星探査機「はやぶさ2」と同じロケットに搭載し、打ち上げを行うプロジェクトも行いますが、途中通信がとれなくなり計画を断念するということもありましたが、その後の開発の糧にもなっています。国内学会では、研究者が対等に議論をしてくれること、海外のカンファレンスでは研究領域とビジネス領域が近いことを体感しました。就職するか迷いもありましたが、このような経験と研究への魅力も感じ博士へ進学しました。

博士課程では、水エンジンの研究グループ立ち上げを行います。研究の一環としてJAXAと東大の水エンジンの開発のプロジェクトも行っていきました。プロジェクトを通して、基礎研究と実利用の両方を経験することができ、基礎研究(基礎研究は現象を解明していくこと)と実利用(信頼して実働すること)には違いが大きいことを感じました。この点は創業のきっかけにもなっています。アントレプレナー向けの講座にも参加し、事業計画を作成したり、ピッチコンテストへのプレゼンの機会を得ます。技術シーズ向けの研究者と投資家がタッグを組んで応募する政府の支援プログラムに参加し採択され、Pale Blue創業に向けて本格的に進めていきました。

2020年に4名で創業した後は、コロナ禍のため大学に立ち入ることができず研究は自宅で行う必要があったり、海外のカンファレンスは行われず、法務局が閉まっていたり、エンジンの開発にはお金がかかっていくという厳しい状況でした。ベンチャーなので、開発、営業、資金調達、経理、広報、採用もすべてを行う必要があり、会社に必要なこと全てを自分でやる必要性がありましたが、時間を重ねるにつれて社員の人数も増えていき、会社のミッション、ビジョン、バリューを制定していきました。2022年11月には、NASAのSLSロケットにより、水エンジンを搭載したEQUULEUSを打ち上げたり、国内、海外問わず民間企業にも活用いただいています。最近も10億円の資金調達を行い水エンジンの生産拠点の立ち上げを行うことや、創業当初は4名だった社員も50名ほどに増えてきています。世界を代表する衛星用エンジンメーカーになるように頑張っていきたいと思います。最後に、まとめのメッセージ(思っていること)を送ります。

株式会社Pale Blue
2020年4月3日設立
従業員約50名 資本金1億円
事業内容:水を推進剤とした小型衛星の推進機(エンジン)の開発や社会実装)
社名の由来;人類が最も遠くから撮影した地球の写真の名が「Pale Blue Dot」
:水を連想させる「淡い青」(東京大学のスクールカラーも淡い青)

株式会社Pale Blueウェブサイト:
https://pale-blue.co.jp/

思っていること

・努力が必ず報われるとは限らない、 ただ努力をしない限り報われることはない
・やりたいことが最初からある人なんてほとんどいない。 きっかけは些細な事なのでどんどん飛び込むことが大事
・自信や確証がなくても、自分の考えを言葉にして人に伝える
・全力でやった結果の失敗には大きな価値がある

留学体験記

オーストリア ザルツブルク大学

坂本 竜（96回生）

留学生用オリエンテーションの様子

①留学のきっかけ

私は早稲田大学の国際教養学部に所属しています。国際教養学部では卒業のために1年間の留学が義務付けられていて、留学先の単位が卒業単位に変換される交換留学制度が一般的です。そのため、1年の留学を行っても卒業が遅れることはありません。私もその制度のもとオーストリアのザルツブルク大学に留学しました。ヨーロッパの中央に位置しており様々な場所に行きやすそうであり、治安が良く、日常生活で英語が通じるという理由から、いくつかの選択肢の中で東欧という未知の世界を留学先に選びました。

留学に不安はほとんどなく、初めて海外で生活することにワクワクしていました。

②学習・学校でのこと

大学では英語で開講されている科目を選択しました。理系の科目から文系の科目まで興味のあるものについて幅広く授業選択ができたことが自身の学びをより広げられたと感じています。授業では、留学生だけでなく学部の正規生と関わることもありました。ヨーロッパを中心とした様々な国から来た生徒が学んでおり、生徒の年齢層も幅広く、日本にはないグローバルさを感じることが出来ました。

学習面において、私は2つのことを主に学びました。多文化共生社会とジェンダー・フェミニズム論についてです。1つ目の多文化共生社会については、移民学に関する授業を取り、人種差別問題や移民であるということが就職にどのように影響するのかなどについて勉強しました。オーストリアに暮らす移民二世や三世の生徒と行ったディスカッションは新しい発見や学びも多くとても刺激的でした。

2つ目のジェンダー・フェミニズムについては日本で少し学んだこともあり、それぞれの国での教え方の違いや論点の違いについても知ることが出来ました。日本では主にLGBTQの人々について学習したのですが、留学先では女性のキャリアや権利について学ぶことが多かったのが印象的でした。

Gender in Salzburg という授業ではザルツブルクという都市の歴史と絡めながらジェンダーについて学習でき、ほかの国からの留学生と交流することも多く、友達を作って様々な話をすることが出来ました。私たちのグループは教育面におけるジェンダー格差についてのプレゼンを行うなどしました。

早稲田大学での授業で英語開講科目には慣れていたものの、最初は自身の意見をディスカッションで堂々と言うことや様々な国のアクセントの違いになれるのは難しく、発言の前に考えてしまって言えなかったり、議論についていけなかったりと辛い思いもしました。また、卒業のために単位を取らないといけなかったため、テスト前には一日中図書館にこもってレポートを書いたり勉強をしたり忙しい日々を過ごしました。

韓国からの留学生友人と(右)

海外留学奨学金基金を利用しませんか

関東在住の土佐高卒業生の若者に、是非海外の文化や最新の技術等を体験して欲しいと、38回生の有志が海外留学奨学金【38池田勲夫基金】を創設され、返済不要の給付型奨学金として、坂本さんを始めとする留学生を応援しています。

夢や目標のある方、冠する土佐の名に叶おうとするものは是非応募してみませんか。申請の受付については、関東支部HPでお知らせいたします。

関東支部HP　https://www.tosako-kanto.org/index.html

学校へ　登校時の景色

③学校や町の魅力

ザルツブルクという都市は人口15万人ほどの小さな州ですが、サウンドオブミュージックのロケ地として有名で毎日たくさんの観光客が訪れていました。寮から大学に行く際に旧市街を通り、毎日見るその景色がとてもきれいで毎回感動していました。また学校のキャンパスも旧市街の中に点在していて、歴史の重みを感じられるキャンパスで過ごすことができました。島国の日本と異なり、オーストリアでは様々な国の民族が混ざり合っていて、ヨーロッパ系の人たちだけでなく、アジア系やアフリカ系、中東系など様々な人種の人たちが共に暮らしていました。自身の想像していたヨーロッパの街と人々とは全く違う光景にも驚きました。また、ホームレスの方が想像以上に多く衝撃を受けることもあり、実際に暮らしてみないと見えてこないこともたくさん経験できました。

④日常生活・文化の違い・観光

私は滞在中、寮生活をしていました。学校専属の寮ではなかったため、他大学の音楽学校に通う生徒や働いている人もいて様々な人と関わることが出来たことが魅力的でした。留学に来てから人生で初めて自炊生活を送ったため、最初の頃は自由時間のほとんどを食料の買い出しと料理に費やしていました。キッチンは共同で、他国の人と話したり、韓国人の子たちが韓国料理を振舞ってくれたりと何回かパーティーもあり、楽しい文化交流ができました。

学期の間の長期休みには様々な国に訪れて観光を楽しみました。大学でできた友達とイタリア周遊をしたり、早稲田の友達とパリで再会したり、初めての一人旅に挑戦したりもしました。

様々な場所へ行けば行くほど自身の世界が広がっていくようで本当に貴重な経験ができたと思います。

⑤結びとこれから

留学中は楽しいことと同じくらい辛いこともありましたが、100%行ってよかったと思います。留学を通じて自身の視野が本当に広がったからです。

日本では海を越えた戦争や地震などが他人事のように感じられますが、海外にいるとそれらの影響が自身に及ぶ危険性を常に感じました。安全面や清潔面において日本ほど良い国はないと思い、また日本の漫画やアニメ文化が大好きで日本語を学んでいる人にたくさん出会う一方で、アジア人差別的な行動をとる大人や子供と街ですれ違うこともあるという、日本にいたら絶対にしないであろう経験もし、自分なりに考えることがたくさんありました。

また、留学を通じて世界史や宗教についてももっと学びたいと思い、更に自身のキャリアについても深く考えるようになりました。

最後に、留学を通じて思ったことは、自分が想像していた以上に自分の将来は可能性があるということです。たくさんの人と出会い、様々な人生を知り、選択肢が増えました。最近就職活動が始まり、どうしても大きな企業に就職することに目が行きがちですが、留学で得た経験を忘れずに自分自身の人生についてもう一度考えてみたいと思います。

【2023年度大学進学】は東大５名、京大８名、阪大10名、早稲田２２名、慶応９名、医学部医学科３２名と例年どおりの成果をあげています。

【学校でのマスク着用】は５月から個人の裁量に任せています。９月末には高校生の９割、中学生の７割が外しており、読む、発表するという声出し授業が活性化しています。11月のインフルエンザ流行とともに再びマスクが増えてきました。

【クラスマッチ】は中学５月２０，21日、高校７月13，14日に学校グラ、新グラ、県民体育館にて行われました。声出し応援が復活し、にぎやかなクラスマッチが戻ってきました。

【高校部活動】高校運動部は四国大会出場17競技、インターハイ出場８競技（硬式テニス男女、バドミントン男、弓道男女、ハンドボール女、自転車、水泳）でした。中でも自転車部はスクラッチ個人で林優明君が全国５位入賞を果たしました。また、鹿児島国体では高校女子弓道部川村優果さんが、遠的競技にて６位入賞を果たしました。川村さんは昨年に続き、２年連続の国体入賞となりました。

高校弓道部の活躍

文化部は各部のコンサートや発表会が盛大に行われました。特に、放送部の横山大明君が文化部のインターハイにあたる鹿児島総文祭のアナウンス部門で審査員特別賞に輝きました。

【中学運動部】は四国大会に12競技（水泳男女、硬式テニス男女、ソフトテニス、ハンドボール男女、陸上男女、サッカー、弓道男女）が出場し、とくに水泳部は４００ｍメドレーの個人、団体で全中出場も果たしました。

海外研修のシンガポール国立大学にて

【海外研修】が復活し、８月２日～７日シンガポール国立大学での研修に20名、８月19日～28日ニュージーランドのパラパラウム・カレッジでの研修に２０名が参加しました。これらは現地の大学で様々な国の高校生と交流し、プレゼンテーションを行うものです。皆様からのご寄付をもとに作られた研修基金からその費用の一部を補助しています。ありがとうございます。初日は遠慮がちな生徒も後半は積極的に発信できるようになりました。

【文化講演会】11月７日に侍JAPAN前監督の栗山英樹さんをお招きして「最高のチーム」の作り方というテーマで講演をいただきました。ダルビッシュ選手、村上選手、源田選手、大谷選手たちとのエピソードを交えて、栗山さんの選手への愛情が感じられる内容でした。生徒たちも引き込まれあっという間の1時間半でした。

栗山さん講演　演台から生徒のそばへ

【修学旅行】は11月14日から17日の３泊４日で東京に出かけました。有明のホテルに３泊ですが、初日はディズニーリゾート、２日目はコース別研修、３日目は班別自主研修、最終日は浅草またはスカイツリーの散策です。特に２日目のコース別研修は、関東支部の方々に受け入れをお願いして実現できております。ご協力に感謝申し上げます。

以上学事報告では華々しい活躍の話をさせていただきました。しかし、土佐高の価値はこれらの活躍には直接現れていない何でもない日常にあると思っています。勉強が得意な子-苦手な子、スポーツが得意な子-苦手な子、行事で前面に出る子-裏方に徹する子、いろんな生徒たちが同じクラスにいて刺激し合う。これが土佐の日常であり、価値であると思っています。今ではこのような私学は少数派になり、クラス分けで文武を分業化して成果を出していくという形が一般的になりました。私はこの土佐の価値こそが、本当の人材育成につながると信じています。

同窓会関東支部の益々のご発展を祈念いたします。

母校だより　　学校長 濱田一志

9月の関東支部同窓会では大変お世話になりました。会場が活気にあふれ、みなさまの土佐高愛をひしひしと感じました。懐かしいお顔もたくさん見られ、ついついお酒もすすんでしまいました。本当にありがとうございました。総会のスピーチでも触れさせていただきましたが、まずは校長としてどんな学校を目指しているのか、どんな課題があるのかについて述べた後、運動会を中心とした学事報告をさせていただきたいと思います。

土佐の建学の精神は「人材育成」です。そのための教育方針として学問、礼節、スポーツがあり、それらを自発的に修養するということを100年以上貫いてきました。この精神と教育方針は今も変わりません。右文尚武すなわち学問とスポーツの両立という土佐の誇りを貫いていこうと思っています。また、報恩感謝すなわち人間教育にも一層力を入れていきます。

次に直近の課題2つに触れたいと思います。1つ目は挨拶です。報恩感謝の基本は挨拶ですが、コロナの3年間でそれが薄れてしまいました。小中学校のときから声出しNGルールで育ってきた今の中高生はいたしかたのないことかもしれません。この挨拶の復興が直近の課題です。おはようございますから始めよう、声を出せないときは会釈をしようということをまずは徹底していきたいと思っています。2つ目はICT化への対応です。チャットGPT、生成AIなど人工知能が急速に発達しています。また、教科書もデジタル化される方向です。用語が難しく感じるかもしれませんが、要は教育現場にコンピュータが深く入り込んでくるということです。これには機器を整備し、試行錯誤しながら土佐らしさと融合させていきたいと考えています。

【運動会】たのしい話題に移りたいと思います。9月23日に運動会が開催されました。4年ぶりにフルスケジュールで観客制限もなしという従来の運動会が復活しました。生徒1600人、観客推定2000人がひしめき、アイスクリン片手に楽しんでいる姿も土佐ならではの光景でした。私自身40年ぶりに運動会を目の当たりにして、やぐらの立体感がすごいな、応援合戦はエンターテイメントの域に入ってきたなと感動しておりました。そして、最も驚いたのが、プログラムの切れ間がなく流れるように続く競技のスピード感です。裏方を引き受けてくれた生徒たちと指導教員がしっかり準備をしてくれたおかげだと思います。結果は紫が15年ぶりに優勝し幕を閉じました。

運動会の歴代優勝チーム

	年	月日	高3の回生	優勝
12	1959	11/5	35	
13	1960	10/30	36	
14	1961	11/5	37	
15	1962	11/5	38	
16	1963	10/29	39	黄
17	1964	11/1	40	
18	1965	10/10	41	紫
19	1966	10/9	42	
20	1967	10/8	43	
21	1968	10/6	44	
22	1969	10/5	45	
23	1970	10/4	46	雨天中断
24	1971	10/3	47	
25	1972	10/1	48	
26	1973	10/1	49	
27	1974	10/6	50	
28	1975	10/6	51	黄
29	1976	10/3	52	
30	1977	10/9	53	緑
31	1978	9/23	54	青
32	1979	9/23	55	黄
33	1980	9/21	56	黄
34	1981	9/20	57	紫
35	1982	9/26	58	黄
36	1983	9/23	59	緑
37	1984	9/23	60	黄
38	1985	9/22	61	黄
39	1986	9/23	62	赤
40	1987	9/20	63	黄
41	1988	9/23	64	白
42	1989	9/24	65	緑
43	1990	9/23	66	紫
44	1991	9/22	67	緑
45	1992	9/23	68	黄
46	1993	9/26	69	緑
47	1994	9/23	70	青
48	1995	9/25	71	青
49	1996	9/23	72	白
50	1997	9/24	73	紫
51	1998	10/3	74	青
52	1999	9/26	75	赤
53	2000	9/24	76	青
54	2001	9/23	77	緑
55	2002	9/8	78	緑
56	2003	9/23	79	紫
57	2004	9/25	80	赤
58	2005	9/23	81	緑
59	2006	9/23	82	赤
60	2007	9/23	83	黄 紫
61	2008	9/23	84	青
62	2009	9/22	85	白
63	2010	9/23	86	白
64	2011	9/23	87	赤
65	2012	9/22	88	緑
66	2013	9/22	89	白
67	2014	9/23	90	黄
68	2015	9/22	91	赤
69	2016	9/24	92	緑
70	2017	9/25	93	緑
71	2018	9/23	94	白
72	2019	9/22	95	白
73	2020	9/22	96	黄
74	2021	9/23	97	赤
75	2022	9/23	98	白
76	2023	9/23	99	紫

ところで、ご自身が高3のときの優勝チームを覚えているでしょうか。歴代の優勝チームについて実はまとまったデータがなく、百年史、向陽新聞、やぐらの写真そして同窓生の記憶をたどって過去50年分の歴代優勝チームを拾ってみました（表上）。第1回～第11回大会までは紅白の2色であり、クラス対抗や部活対抗など入り混じっていたようです。第12回大会（1959年）から5色になりました。表にまとめると空白部分が気になるところです。また、記憶間違いなどがあるかもしれません。この点は同窓会の皆様のご記憶に頼るしかありませんので、ご一報いただければ幸いです。開催日の変遷も第1回～3回大会は開校記念日（11/18）あたりでした。その後、文化の日（11/3）→旧体育の日（10/10）→秋分の日（9/23）というようになっています。第60回大会では2色同点優勝でした。3連覇したチームは･･･もしかしたら空白部分にあったかもしれません。

第25回 ハイクの会 霧ケ峰縦走

9月2日から1泊2日でハイクの会が行われました。散策組もリフトではありますが車山頂上へ登り、百名山の山頂をいただきました。登山組は、霧ケ峰最高峰の車山から蝶々深山を通り八島湿原までを縦走しました。高原はさわやかで暑さを忘れるほど。小学生から80歳までが、木道を列をなして進む光景は圧巻でした。湿原は、トリカブトやマツムシソウと夏から秋の花がいっぱいでした。

ワイナリーでの試飲でほろ酔い、中山道の和田宿本陣では歴史を学び、ぶどう狩りではおなかいっぱいにシャインマスカットを頬ばりました。今回初参加だった3名の44回生に感想を書いていただきました

今回、「ハイクの会」へお誘いをいただき、名古屋から初参加しましたが、山歩き、俳句・川柳、史跡見学などの日程もさることながら、同窓生と久々に再会して歓談する機会ともなり、二日間を楽しく過ごすことができました。

二日目の霧ケ峰ハイクは、先ず車山の山麓から山頂近くまでリフトに乗り、5分程歩いて百名山の車山（一九二五m）に楽ちん登頂。気象観測用レーダードームが設置された山頂は、やや雲が多いものの青空が覗くまずまずの天候で、集合写真を撮影後、縦走組と散策組に分かれて出発しました。私は縦走組に参加。随所に咲く高山植物の花々を眺めながら蝶々深山（一八三六m）を経て物見岩で昼食休憩の後、天然記念物の八島湿原まで約3時間の高原歩きを満喫しました。

また、ハイクの会の前日、上京ついでに高尾山（五九九m）にも初登頂。折角なので、ケーブルカーを利用せず、薬王院を通過する1号路を1時間半程歩いて山頂へ到達。登山道の前半は、古稀超えの身には結構な急登でかなり疲れましたが、好天に恵まれ、山頂からは富士山などを眺望できました。

山﨑博司（44回）

当日、すり鉢のような甲府の町で、シャインマスカット狩ができて、うれしかった。買って帰ったぶどうに奥さんも大喜びでした。

ハイクは、信州の車山から湿原までした。山は初めてということもあり、自宅も会社も伊豆にあるので海しか知りません、前を歩く幹事の中平さんの背中と自分の足先以外は、景色も音も色も何も感じなかった。何もないことが気持ちいいことを知りました。

山歩きの前日は、夕食の後で「おきゃく」でした。「おきゃく」という言葉になじみがありません。お袋の実家の佐川ではこういう集まりを「じんさい」といいました。たぶん神祭と書くと思う。いとこはとこだけで24人おり、おふくろや叔母は酒が入ると歌いだし、そういえばほとんど女だった、子供たちはこっそり「はしけん」をやった。信州での「おきゃく」も同じようにぎやかでした。次々に日本酒がまわされ、集まり大声を上げ、笑って、つぶれました。その賑わいがまだ耳に残っています。

11月、6回目のガンの手術です。いつも手術の半月前のこの時期に思います。「来るなら来い、またここにかえってくる」と。また普通の日が来るようにと思っています。　公文雅之（44回）

前もって帰路のバス中ではのんびりしていられない、俳句と川柳を捻らねばならず大変！！と聞いていました。席題は初日に「蜻蛉」と「鰯雲」と出されていたのに二日間とも陽気は夏で暑かったし、頭が全く秋のモードになってくれません。何とか俳句、川柳ともに二句ずつ提出し、中山先生の選の発表に皆少し緊張の面持ち。俳句の天に選ばれた田村さんの句、夕膳の明太鰯をよくぞ連想したよねと感心しました。

同級の44回生で初参加の公文さんは川柳で（天）山崎さんは両方で（人）と大活躍でした。十位までに選ばれたので陶芸家井上先輩のお皿を二枚頂いて帰ったら、夫が誉めてくれて（お皿を）来年ももらっておいでとのたまいました。体力次第ですが、又参加したい楽しいハイクの会でした。

桑原祥子（44回）

俳句と川柳
中山世一選

俳句の部　席題　鰯雲・蜻蛉

天　宿の膳もう一品は鰯雲　田村正寿
地　ファインダー覗く帽子に赤とんぼ　橋田恵美子
人　車山ドームの上に鰯雲　山崎博司

川柳の部

天　プーチンに顔が似てるとつまはじき　公文雅之
地　万歩計歩数増えたが歩幅減る　池田勲夫
人　忘れ物注意の幹事も忘れ物　山崎博司

俳句も川柳もそれぞれ1位から10位までが選ばれ、バスの中で表彰式が行われました。長年にわたり選句をお願いしている37回生中山世一先生にお礼のお皿が陶芸家の井上健郎さん（38回）からが送られました。お二人とも、25回と続くハイクの会の立役者であることは間違いありません。感謝！

ハイクの会は毎年９月の第1週土日に１泊２日で開催。参加してみませんか。

MIKA YAJIMA SOLO EXHIBITION 2023

螺旋の記憶

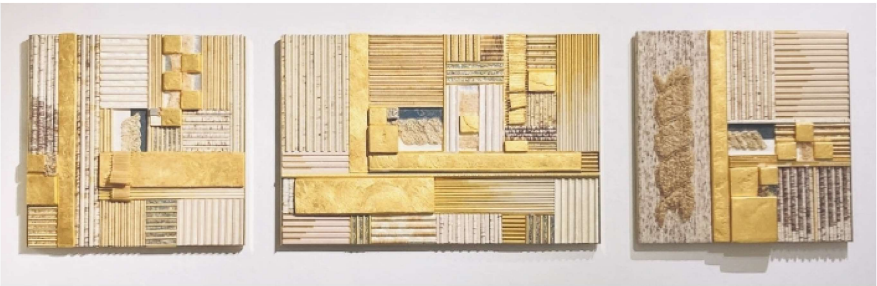
A Piece of Spiral

2023. 09. 30-10. 08　ギャルリ ニュアージュ

JOMON SPIRAL

今秋東京で初めての個展を行いました。 土佐中・高等学校同窓会関東支部の皆様方におかれましては，同級生はもとより諸先輩方にもお越しいただき再会が叶い、 その後の制作の進化をご報告出来ましたことをこの場をお借りし御礼申し上げます。 関東支部との関わりは卒業後、実家に送られてきた筆山の“近況報告をお知らせください”の文言から始まります。 大学卒業制作がクラフト展に入賞し勤務先の買い上げとなった旨ご案内状を出したところ、 当時の筆山編集長 岩村先輩が会場に来てくださり取材を受け筆山の記事となりました。 それが手弁当のボランティアと理解したのは随分経ってからのことです。 記事をご記憶くださった諸先輩方から総会の度にお声掛けをいただいた体験は、 郷里を後にし独りで自らの路を開拓しなければならなかった身にとってどれ程心強かったでしょう。 フリーランスの身で上場企業のお仕事がこなせてきたのは諸先輩方の軌跡のお蔭によるものとこの歳になって改めて感謝申し上げます。

年初よりこの漆喰のギャラリー空間に合わせた、 1 階に大地をテーマにしたオリジナル素材による作品群、 2 階にはギャラリーの名にちなんだ NUAGE(仏)= CLOUD(英)= 雲 (日) - 〝雲の上の機織り工房〟ストーリーをテーマにした作品群をトータルに全精力で仕上げてきました。 渦巻銀河、 DNA 螺旋、 転生の記憶… 織機が生まれる以前、 世界中で受け継がれてきた古代捩り織りスプラング技法と大地からの恵みからなる植物素材や鉱物素材が、 横から見た螺旋、 フィボナッチ数列からなる面螺旋、 糸の撚りからなる螺旋としてそれぞれの作品に埋め込まれています。 人類の進化と下降は螺旋にたとえられます。 今、 この時代この時に地球に生を受けた皆様方それぞれの KEY を見つけて頂けたらアーティストの本望です。



MOTHER EARTH **ー母・大地・地球**　　F0 = 0, F1 = 1, FN+2 = FN + FN+1 (N ≥ 0)

幼かった頃、 庭の植木の葉や茎をちぎってはその皮を剥ぎ葉脈を見ては観察していました。
繋いだり撚ったり、 爪に染み付く緑の樹液、 最後残る葉っぱの芯、 今でもその繊維の感触を明確に覚えています。 美術大学在籍中に実家の蔵で曾祖母の機織りの道具を偶然見つけ、
機織りの祀りごとを大切にしながら一族を守ってきたその軌跡を辿るうち、 昔はどこの家
でも受け継がれてきた機織りの伝統的手法や素材を使いながら何か新しい表現を試みる
アーティストを目指したいと思いました。 習ったことがないことでも自然に手先が動く..
そこには会ったこともない先祖との何か見えない遺伝子の繋がりがあるかのようです。

繊維を採る、 撚る、 糸にする。 巻く、 織る、 捩る…
太古からのシンプルな技法に現代のエッセンス加え、 細い糸と金属、 軽きものと重きもの、
柔らかさと硬さ、 相反するパラドックス的な素材のコンビネーションから繊維と相反する
素材が調和し、 新たな魂が作品に息吹く瞬間を体験したく何かのカタチにしています。

染織造形作家　TEXTILE & FIBER ARTIST

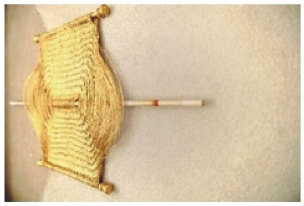
矢島 路絵 | 山本 美香 | 59 回生

土佐高等学校在学中染織の道を志し、美術教諭・門田先生のアドバイスにより日本のタピストリー界の先駆者島貫昭子教授に学ぶ為、 東京造形大学デザイン学科織コース進学。 大学在学中の制作テーマは芭蕉・紙布・ぜんまい織ーそれぞれが独立して継承され作品として交わることのなかった民芸染職素材を融合させるー素材研究とタペストリー制作。 1988 年市田株式会社総合職入社、 人間国宝をはじめとする工芸作家のきものを扱う商品担当、 公家や武家の衣装調度品を展示する文化催事や消費者催事の販売促進を担当後 1992 年同社退社フリーランスとなり以後ホテルや企業ビル、 航空会社ラウンジ等、 建築空間へのオーダーアートワークを手掛けている。

WWW.MIKAYAJIMA.COM

RYU

5x5 Multilayer JOMON



Nuages dorés　金色の雲

ふるさとへの手紙

慶應義塾大学4年　藤村佳穂（95回）

【広がった世界】

大学に入ってから実感したことで1番大きなことが、自分の中の世界が広がったということです。特にあらゆるバックグラウンドを持った友人と交流することができたことがとてもありがたく素敵な機会でした。世界を転々としていて何ヶ国語も話せる人、起業している人、別の大学から入学してきた人、兵役に行っていた人、休学を繰り返して8年間ずっと大学にいる人、いつも和服と下駄で登校している人など様々な人がいました。初回のクラスZoomではフランス語で会話を始める人までいて度肝を抜かれました。そんな多様な価値観を持つ仲間達の異文化と交流し、協働して喜怒哀楽を共にできたことは最高の経験でした。

【無限大の選択肢】

大学に入ってから選択肢の多さにも実感をしました。高校までは学校、部活、塾というルーティンができていましたが、大学に入ってからはあらゆることを自分自身で決めることができました。だからこそ、私は挑戦の機会を逃すまいとあらゆる挑戦をし、興味を持ったことにはすべて頭を突っ込んできました。数年間の貴重な時間を時間を有意義に過ごすことができたと実感しています。中高生の皆さんはただ受験勉強をするだけでなく、大学に入ってからどういう分野を学びたいのかを考えて大学を選ぶことがおすすめだなと思います。

ゼミ集合写真（後方右から二人目）

【縦の繋がりと報恩感謝】

土佐校の縦の繋がりは在学中の運動会の応援団などでも魅力的に感じていましたが、卒業してからより縦のつながりを実感しました。就職活動をするにあたって関東同窓会で出会ったOBOGの皆様に大変お世話になりました。「土佐校の後輩である藤村さんのために〇〇してあげたい」というようなありがたいお言葉をたくさんいただき、土佐校の報恩感謝の理念を卒業してからより深く体感しました。私自身も今後後輩たちにたくさんの報恩感謝のリレーを繋いでいきたいと感じています。また先輩方は今後もお世話になります。よろしくお願いいたします！

まだ参加したことがない方はぜひ、新たな素敵な繋がりが待っている土佐校の同窓会に足を運んでみるのはいかがでしょうか！

UIターンをお手伝いします。
転職・移住
●Uターンしたくなったら
私たちにご相談ください。
●Uターン、Iターン希望の方がいたら
私たちをご紹介ください。
気軽に
相談してよ♪
厚生労働大臣許可番号
39-ム-300012

一般社団法人
高知県UIターン
サポートセンター
高知本部
高知県、市町村、関係団体の43団体を社員とする一般社団法人です。無料職業紹介所として、高知県の企業と就職・転職希望者のマッチングをはじめ、UIターン希望者向け各種イベント、及び移住の際のサポートを行っています。
088-855-7748　jinzai@iju-jinzai.kochi.jp

東京窓口
03-6206-1707
[開設時間] 10:00～18:00(平日)
東京都千代田区内幸町1-3-3 内幸町ダイビル8F
東京
セカンドキャリアの相談も大歓迎！

高知で働きたい！を応援します。
「高知求人ネット」
高知求人ネット
WEB

ご相談・ご紹介等、よろしくお願いいたします。　高知県UIターンサポートセンター

会報誌『筆山』の編集にご協力いただきありがとうございます。卒業生は実質増えていると思われますが、住所登録の会員さんは減ってきております。関東支部に住所とメールアドレスの登録をしませんか。関東支部では、HPのリニュアル作業も進めております。イベント情報をより見やすくお知らせいたします。

関東支部HPより WEB版もご覧ください

前期の記事はＨＰで情報を送らせていただきました。筆山会新年会・「飢えた潮」翻訳と出版・都会で子育てについてはＨＰより詳しくご覧いただけます。

筆山会新年会

たのしかった同窓会交流会

森　健（二三回）

今年の1月14日(土)に開催された筆山新年会は、ご出席の皆様のおかげで大変たのしい交歓の会になりました。

いつも優しくさわやかな佐々木泰子会長(三三回)の挨拶、とても軽妙でたのしい森郁夫関東支部長(四一回)の挨拶と乾杯で、新年会の笑顔の輪が一斉に広がりました。久しぶりに会えたなつかしい方々との談笑の時間のあと、この会の眼目のひとつである同窓会関東支部の活動や同窓生交流のための各団体から活動の紹介の時間です。

中島宏さん(三八回)の司会で支部の町田憲昭幹事長(六七回)を始め、各団体のチームから今年のビジョンの説明がありました。

そのあと自由スピーチの時間になり、たのしいスピーチの記憶を残してくれました。全員が肩を組んで高らかに歌った校歌『向陽の空』。今年の明るい希望の空がいっぺんに広がりました。たのしかった今年の新年会。筆者は安堵とともにふたつの思いに浸っておりました。

そのひとつは、最近の母校における教育の進化と生徒達の成長を実感できる幸せです。たとえば『筆山』2022年7月号に載った前小村校長の母校だよりです。九七回生は各種の運動種目や文化部の活動で好成績を残しました。

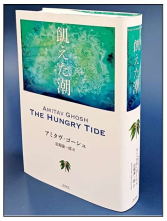
興味を持つ。それで表彰されるほどの実力をつけ、人間として大きく成長する。そのうえで進学にも大きな成果を出す。といった人としての「よいつながりをつくる目利き力」と「それを成功に導くチーム化力」に卒業生として大いに刺激を受けております。これは現代に大切な力を生徒が自律的に獲得したことを示すとともに、母校の進化する教育をアピールしております。

もうひとつは、筆山会新年会の発展への期待です。五十年ほど前に同窓会を支援する同窓生の有志が月一回集まって懇親する筆山会を作りました。そして2012年から時代の要請に応えて今の形の新年会を実施しております。現在、筆山会では佐々木会長と前田憲一幹事(三七回)らが張り切ってくれております。新年会が、ますますたのしい同窓生交流会の広場になりますように頑張るとのことです。　来年の新年会には、さらに多くの皆様のご参加を期待しております。

「飢えた潮」翻訳／出版
岩堀兼一郎（78回）

78回生の岩堀兼一郎です。私は土佐高校を卒業してからの20年、東京、シンガポール、マレーシア、インド、熊本と、転々としてきました。その間、英語、ペルシャ語、中国語、マレー語、ヒンディー語などを覚えたり忘れたりしながら、大学でアジア史を研究したり、プラント工事に従事したり、政府開発援助の仕事をしたりしながら今に至ります。そして今年4月、世界的小説家アミタヴ・ゴーシュ『飢えた潮』の翻訳を出版しました。

アミタヴ・ゴーシュはインド出身米国在住の英語作家で、彼の作品は日本を除く世界中で愛読されています。本作『飢えた潮』の舞台は、インド・バングラデシュ国境のシュンドルボン。世界の眼の届かないこの「辺境」でカナイ・ピヤ・フォキルの三人が出会う時、人類と自然の均衡が崩れ、過去と現在、二つの時代で、歴史・宗教・差別・神話・政治・地質学・生態系・災害すべてのジャンルを突き抜ける壮大なドラマが幕をあけます。世界を見る眼さえ変わってしまう嵐のような巨大なスケールの小説です。



原作発表から20年、現代の名作として世界中で読み続けられてきた本作。出版社と協力してクラウドファンディングでの資金調達を実施、五００頁の大作を比較的手頃な価格で出版することができました。ぜひ、ご一読を！

都会で子育て　佐藤彩記子(81回)

高知で過ごす場所

いよいよお正月休み。皆さんはどのように過ごされますか？高知への帰省の際に我が家がよく利用する遊び場所をいくつか紹介します。

1. 交通公園（高知市比島町4丁目8番地）
   ゴーカート（1人1周100円）とSL機関車が魅力的。
   見通せる広さなので迷子にならない
2. 蔦屋書店Kids Park CHUCHU
   （高知県高知市南御座90−1 3F）
   ボールプールや立派なおままごと大型のトランポリン
   室内なので気候に左右されないのも魅力的。
3. 造形教室（高知市和泉町3-24-2F）
   土佐校の元美術講師・都築房子先生の図工教室。
   長期休暇はビジター参加OK。気軽に図画工作を楽しめます。　https://zoukei.org/
4. ヨネッツ高知（高知市長浜6459）
   滑り台や外プール、サウナにお風呂も充実しているとても快適な施設。祖父と食べるプールの後のラーメンは小学生の娘にとって高知でのお楽しみ。大人の時間をひとりで独占できることは贅沢なようです。

皆さんもいかがですか。

１時間で干支の置物を作成

都会で子育て

子育てインタビュー　シンガポール在住5年。兄妹2人のお子さんを育てる上野あゆみさん（81回）に子育て事情について、同期2人がリモートインタビューしました。

上野家のこと教えて下さい

お気に入りのお出かけ場所は？

Singapore Zoo　熱帯雨林に囲まれた動物たちを身近に見られる動物園

Far East Organization Children's Garden　無料の水遊びスポット（マリーナベイサンズ近く）

お気に入りのテレビ番組を教えてください

6歳息子　ドラえもん（日本語のアニメ）

3歳娘　Paw Patrol（英語のアニメ）

大好きな絵本は？

息子　日本語「バムとケロ」シリーズ

英語　National Geographic 発行の図鑑絵本（生き物や恐竜に興味がある）

娘　日本語「のんたん」シリーズ

幼稚園では英語読み聞かせ、家では基本的に日本語の絵本。

子育てのことで夫婦で決めている事は？

本人の興味、やる気を汲み取りながら受け入れ、本人のペースで取り組むことを心がけています。

家族の幸せはどんな時に感じますか

息子と娘が楽しく笑顔で遊んでいる時。

二人の成長を見守れることに感じます

★理想の子育てとは？

親としては子供の視野を広げてあげたいです。自分自身高知の閉ざされた環境で育ち、将来のキャリアやお金を稼ぐことについて学ぶ機会が限られていたと思うのです。東京やシンガポールには高知では触れられない情報や身に着けられない知識が知らず知らずのうちに得られる環境があると思います。一方で、シンガポールは日本と違って自然や四季を感じる場所が少なく、自然科学に興味が持ちにくい環境なので、子供を自然に触れさせたいと思ったら親がかなり努力する必要があります。シンガポールで子供を育てると経済やイノベーションには関心を持つかもしれないが、自然科学に関心を持ちにくい環境だと感じます。

子供がどういったことに関心を持ち、どう生きたいのか。シンガポールの教育制度は優秀な子供にとっては手厚い枠組みだが、多くの親の願いからすると少し理想とは違うと感じています。

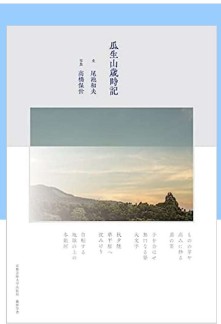
出版レーダー

田島征三（34回生）

『たべるぞたべるぞ』
佼成出版社 2023/9

門脇護（53回生）/ 門田隆将

『リーダー3つの条件』
ワック 2023/3/22

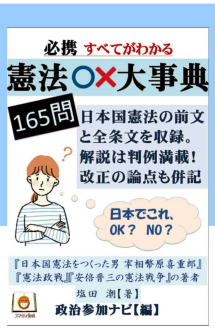


尾池和夫（34回生）

『瓜生山歳時記』
メタ・ブレーン 2023/4

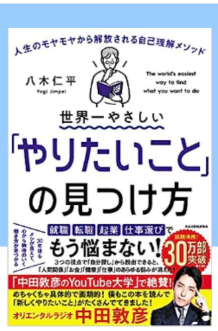
森岡浩（55回生）

『47都道府県・戦国大名百科』
丸善出版 2023./1



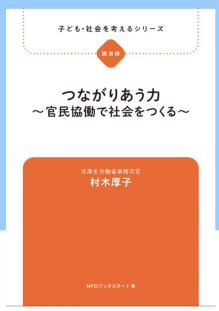
塩田潮（40回生）

『必携 すべてがわかる憲法○×大事典』
サイバースマイル 2023/3



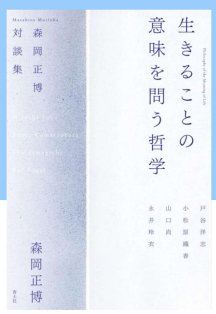
八木仁平（87回生）

『世界一やさしい「やりたいこと」の見つけ方 人生のモヤモヤから解放される自己理解メソッド』
KADOKAWA 2020/5



村木厚子（49回生）

『子ども・社会を考えるシリーズ つながりあう力～官民協働で社会をつくる～ 』
ブックスタート 2023/4



森岡正博（52回生）

『生きることの意味を問う哲学: 森岡正博対談集』
青土社 2023/4

私の一冊

八木仁平（87回生）

「世界一やさしい「才能」の見つけ方 一生ものの自信が手に入る自己理解メソッド」(2023/4) **KADOKAWA**

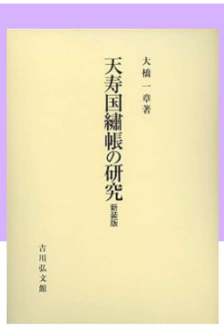
本書は独自の自己理解プログラムを提供する筆者の第2作目。才能は、人より秀でている類のものでなく、「ついやってしまうもの」だと定義し、読者が自分で才能を「見つける」「活かす」「育てる」方法を教示してくれます。才能発見ワークは質問が具体的ですので本書にそってすすめていけば自身の気づかなかった「才能」を言語化できるようになっています。ワークの一つ『才能の具体例1000リスト』は、短所だと自認していた性質を「才能」なんだよと背中を押してくれているようで、救われる気持ちになる読者もいるのではないでしょうか。『世界一やさしい「やりたいこと」の見つけ方』とあわせて読んでみてください。

遠藤瑞枝（67回生）

出版レーダー

倉橋由美子（29回生）

『掌の読書会-桜庭一樹と読む 倉橋由美子』
中央公論新社 2023/12/21



大橋一章（36回生）

『天寿国繡帳の研究(新装版)』
吉川弘文館 2023/7/31

塩田潮（40回生）

『安全保障の戦後政治史: 防衛政策決定の内幕』
東洋経済新報社 2023/10/4

宮岡等（49回生）

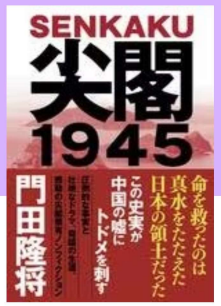
『職場のメンタルヘルスケア入門』
医学書院 2023/8/28

村木厚子（49回生）

『女性がより活躍できる組織・社会づくり』Kindle版
ビスマルク美術出版 2023/8/7

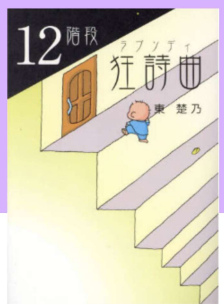
森岡正博（52回生）

『人生の意味の哲学入門』
春秋社 2023/12/18



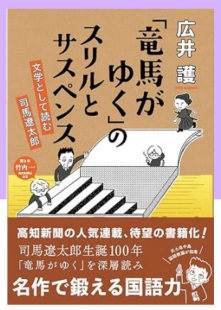
門脇護（53回生）/ 門田隆将

『尖閣1945』
産経新聞出版 2023/11/15



臼井志乃（70回生）/ 東楚乃

『12階段狂詩曲（ラプソディ）』
南の風社 2023/7



広井護（土佐中高元教諭）

『「竜馬がゆく」のスリルとサスペンス』
高知新聞社 2023/11/23

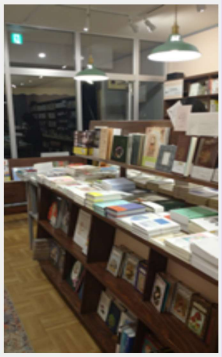
BOOKSTORE

「フラヌール書店」オープン！ 久禮亮太さん（69回生）

久禮さんが運営する書店が不動前（東京都）に今年3月にオープンしました。

久禮さんは書店コンサルティングを手がけるフリーランス書店員として活動しており、本誌71号でもご紹介しました。店名の「フラヌール」とはフランス語で「遊歩道」〈歩きながら考える〉を意味します。店舗は約15坪でギャラリースペースを設けており、原画展などの展示が行われています。久禮さんがセレクトした書籍は人文学、社会学、芸術、絵本、料理本などジャンルは幅広く、新刊のみならず数年前に刊行した本も並んでいます。久禮さんは「自身の思い描いた書店をオープンできました」と話していました。 温かみのある書店の空間に癒やされながら気になる本を手に取る、、至福の時間でした。

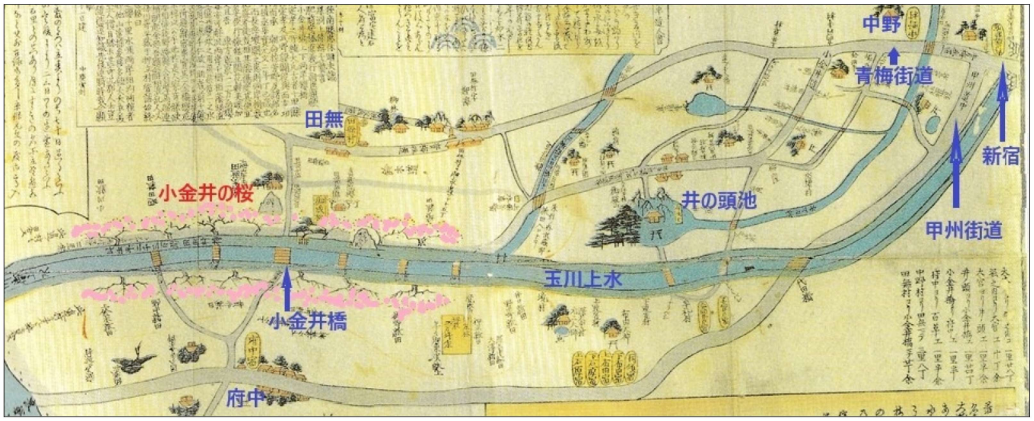
遠藤瑞枝（67回生）



東京都品川区西五反田5-6-31
東急目黒線不動前駅より徒歩3分
12:00~20:00
定休日 毎週水曜日、第1第3火曜日
flaneur.base.ec

江戸百景（二十三）　小金井の櫻

春になると日本人は必ずさくら花のことを思う。大和民族がいつ頃からこれほど桜を愛し始めたのか。万葉集には梅の歌が多いというが、桜を詠んだ歌も皆無ではないらしい。しかし詩歌に頻繁に桜が登場するようになったのは、平安京遷都後、吉野山の山桜が公家階級の人々に深く愛され始めてからである。単に「花」と言えば桜花の代名詞になってしまった。



（上）武蔵野小金井櫻順道絵図（幕末～明治初年頃の花見の案内地図）。分かりやすくするため、筆者が地名を書き込み色を付けた。

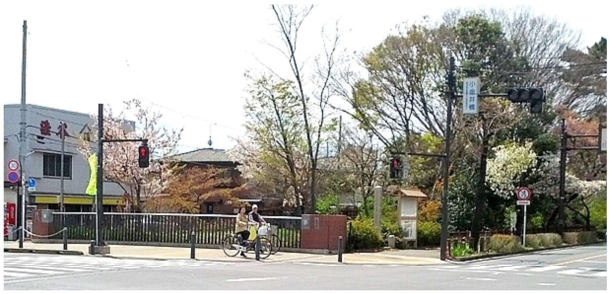
幕末まで、江戸で最も名の知れた桜の名所は、四ヶ所あった。隅田川、飛鳥山、御殿山、小金井である。つまり、「向島墨堤の桜」、「王子飛鳥山の桜」、「品川御殿山の桜」そして「武州小金井の桜」である。そしてこの四ヶ所とも十八世紀前半、享保・元文の頃に八代将軍吉宗が江戸市民の娯楽のために桜の苗木を植えさせたのが始まりである。

◇**小金井の櫻**

現代では、小金井の桜と言えば都立小金井公園を思い浮かべるが、昔からの名勝「小金井の櫻」は、玉川上水の両岸に六キロに渡ってあった桜並木のことである。その数は推定六千本。武蔵境駅の真北八百メートルにある桜橋から上流に向かって、小平まで約六キロ、玉川上水の両岸に主として山桜の並木があった。現代と違って、楢、ブナ、欅のような他の雑木は一切無く、桜だけの並木であった。この桜並木は江戸期、明治、大正、昭和、太平洋戦争後まで、地元の人たちによって手入れをされ続けてきたが、昭和40年の淀橋浄水場の廃止により小平監視所から下流の玉川上水に水が流れなくなり、自然、桜樹の手入れも怠って、今のような雑木優勢の鬱蒼とした土堤になってしまった。しかし東京都の調査で、いまだに八千本以上の桜が残っているという。しかし今は他の雑木が大きくなりすぎて桜は目立たなくなっている。

（上）歌川広重『江戸近郊八景之内　小金井橋夕照』＜江戸近郊八景（天保八年-1837）より＞。小金井橋北岸より西を望む。この小金井橋が花見の中心地だった。富士が見える。老木も花盛り。何代にも渡り植え替えられた桜樹はこの頃は既に老木になっている。

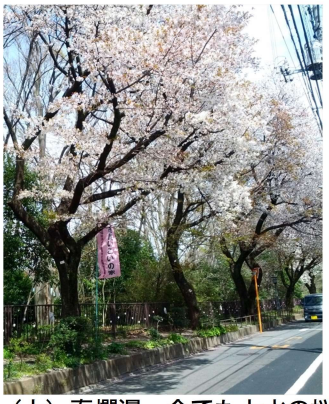
（上）歌川広重『富士三十六景　武蔵小金井』＜富士三十六景（安政六年-1859）より＞。広重最晩年の作品。玉川上水北岸から西を望む。桜満開で、上水の流れは急。老木のうろから富士が見える。



（上）上図と同じ方向から見た現在の小金井橋。桜の季節だが上水土手は雑木優勢になっている。しかし残っている桜は満開である。筆者撮影。

十八世紀前半、八代将軍徳川吉宗は幕府の財政を建て直すため享保の改革を押し進め、江戸町奉行の大岡越前守忠相に武蔵野の新田開発を命じた。鍬入れから十五年後の元文元年（一七三六）頃に南北武蔵野新田八十一ヶ村ができた。

元文二年頃、吉宗の意を受けた大岡忠相の命により、押立村（府中）名主の川崎平右衛門定敬が中心になり、武蔵野新田の農民が協力して小平から境までの玉川上水両岸の一里半（六キロ）にわたって桜の苗木を植えた。奈良の吉野山等から取り寄せた山桜の苗木で、その数は正確には伝えられていないが六千本と言われる。桜を植えた目的は新田に出来た人工の土堤に桜樹を植えることで、桜の根が上水の水や毒を吸い取り、桜の固定化と期待したのである。桜の実やそこに生える花を目当てに人出が活性化し、地域の活性化に伝統的な名所を創出したのである。



（上）春爛漫。今でも上水の桜はしっかりと咲く。小金井桜は現在でも多種類の山桜である。

それから六十年後の享和年間（一八〇二年頃）には、「武蔵野千本桜」「小金井の桜」などと「桜花」賞される見事な桜並木に成長した。文化・文政期（一八〇四～三〇）には江戸の多くの文人墨客達が花見に訪れ、彼らの筆によって、その美しさが段々と江戸中に知れ渡っていった。太田蜀山人や絵師・歌川広重などもその一人であった。小金井の桜は植えられてから六十年が経過した享和年間からようやく人に知られかけたが、江戸から遠い分、あまり人出が無かった。しかし、だんだん人足（ひとあし）がつき、嘉永（一八五〇頃）になって、時の幕閣の首班阿部伊勢守正弘が遠馬を試みたことから賑やかになったのである。小金井は江戸から六里の行程、花見の時は早く出て遅く帰る。一泊する者も少なくなかった。花見の中心地は丁度桜並木の中間地点である小金井橋（今の、小金井街道と五日市街道の交差点に当る）の周囲であった。文人達の文章にも絵師の絵筆にも、必ず小金井橋が出てくる。

《四一回　西岡恒憲》